



東京部会(第99回)

日時:	2018年4月26日(木) 19:15-21:30
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原聡一(京都学園大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、鈴木深(東京証券取引所)、岡部ちはる(東京証券取引所)、鍋島史一(教育実践研究オフィスF)、小林かおり(筑波大学大学院)、杉田孝之(千葉県立津田沼高校)、塙枝里子(都立府中東高校)、藤巻朗(目黒学院中・高)、岸香おり(ICU高校)、山田勝之(足立区立第四中学校)、金子幹夫(神奈川県立三浦初声高校)、中沖栄(清水書院)、鈴木孝治(日本経済教育センター)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上15名。

(1)3月の年次大会の総括が行われ、当日の様子などが新井から報告された。

(2)夏休み経済教室に関する内容の検討が行われた。

鈴木深氏と岡部ちはる氏より、プログラムの全体が紹介され、タイトルの確認など、今後の事務作業に関する報告があった。

次いで、新井より各プログラムの内容の解題(担当者の敬称略)が以下のように紹介され、参加者による検討、課題の確認の作業が行われた。

<東証>

・鈴木、岡部:株式会社に関するレクチャー、新しく開発する予定の体験型教材の紹介

<中学>

・野間・三枝:Basicとして経済の授業づくりとエコノミストのコラボ

・山田・阿部・篠原:体験型授業の紹介と経済的な見方・考え方との関係

・升野・安野:附属学校での先進的な取り組み例の紹介

・奥田・篠原:奥田授業提案を経済学から読み解く

・佐藤・篠原:歴史授業を踏まえた公民への展開の事例とそのコメント

・田丸・新井:札幌部会の取り組みとそのコメント

・河原(ネタ研)・杉田:河原授業の提案とその授業づくりの秘密を杉田先生とのコラボで解剖する

・佐藤(福島大学):エコノミストが中学公民の教科書から授業提案をしたら

・河原(立命館)・加藤:防災を地理と経済から読み解く

・中山・加藤:エコノミストとコラボをした労働をテーマとした中学授業の提案

<高校>

・栗原、大杉:高校新学習指導要領を読み解く(特に「公共」に焦点を合わせて)

・杉田・山崎:杉田授業と山崎授業の提案とその作り方を公開する

・金子・杉田:杉田授業と金子授業の提案とその作り方を公開する

・塙・加藤:コラボで作上げた三つの授業の紹介とエコノミストとの関わりを紹介

・佐藤・鍋島:大学新テスト試行問題を素材としてこれからの授業づくりを考える

・篠原:歴史シリーズ、江戸から明治への経済システムの転換を経済から読み解く

・中川:持続可能な社会づくりの授業に公共経済学の知見がどのように役立つかをレクチャーする

・安藤:働き方改革、AI導入に揺れる労働を経済学から読み解き授業に生かす

・鹿野:金融の新しい動向を授業でどう伝えるかその基礎を学ぶ(年次大会の継続)

・諸富:財政問題と税金(なぜ税をおさめなければならないのか)



必要なサブタイトルの決定、授業紹介の担当者の組み合わせの変更(名古屋での山田・阿部、升野・安野を山田・安野、升野・阿部とすること)などが課題として残されたが、近日中に決定してゆくことで了解された。

## 2 実践報告・教材提案関係

### (1) 参加者からの報告

a) 鍋島史一氏(教育実践研究オフィスF)より、夏の教室に向けて、佐藤英司先生(福島大学)との間での情報交換の様子と準備状況の説明があった。

センターテストに代わる新テストの試行問題を分析して、日本語をどれだけ読めるか(50分のテストで1万2000字程度を読みこなす)が問われること、問題文を全部読まなくとも正解にたどり着けるような問題でも極端に正答率が悪い問題があること、これらの課題には読解力を増進しなければならないが、教科書を授業で音読させている授業がほとんどないこと、などを夏の教室で提起してゆきたいとの紹介があった。

b) 杉田、金子先生の授業づくりの紹介と検討

まず、杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)より、夏の教室にむけての準備状況の説明があった。ネットワークメンバー有志の勉強会(通称「陰謀会議」)での検討中のもので、杉田先生が授業づくりの核と考えている、教材選択の5条件、概念学習、それを使つての課題学習の取り組み、生徒の反応の紹介があった。

次いで、金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高校)より、同じく夏の教室に向けての準備状況の説明があった。杉田・金子がコラボで登場する意味、個性が異なり、対象の生徒が異なる教師が同じテーマを扱う場合の共通性と異質性を踏まえて、自身の授業づくりのこれまでのプロセス、教科書の目次から授業全体の流れを構想し、そこで使える体験型の教材開発をしていった過程が紹介された。

検討では、二人が登場して、それぞれの持ち味や方法を生かして授業づくりをしている点では興味深いが、これまでの報告では二人が登場する意味がまだ見えないという意見や、材料が豊富すぎるので一番大事にしているものをさらに抽出して行くと良いというアドバイスなどが出され、さらに検討を加えて行くことになった。

c) 山田先生の授業案の検討

山田勝之先生(足立区立第四中学校)から、夏の教室で発表予定の内容の概略の説明があった。

証券知識普及プロジェクトが作成した「ミスターXからの挑戦状」という教材を使った「企業をつくろう」という授業で、6時間を使って、準備から、起業プランの作成、発表、評価、加えて自分たちの企業の求人広告を作成させるという流れで取り組まれた授業である。現在の指導要領では歴史学習が一学期の半ばまで入り、中三公民が実質的に圧迫されているなかで、経済を学習することが生きるために役立つために、この教材を使うと教科書のこことここを使えますよという提言をしたいとの説明であった。質疑のあと、この方向で発表することが了解された。

### (2) その他参加者からの情報交換

新井から、雑誌『経済セミナー』2018, 4・5月号の大竹文雄先生と小巻泰之先生の対談にネットワークの活動が登場していることが紹介された。

<https://www.nippon.co.jp/shop/magazines/latest/3.html>

関連して、昨年の夏の教室の中学向けの講義で提示された野間敏克先生(同志社大学)の授業モデルが紹介され、このモデルを活用した授業開発を目指したらどうかとの提案がされた。これに関しては、今後の検討課題ということになった。



### 3 今回の東京部会

今回は、夏の経済教室に関連する事項の検討、授業提案の検討を中心に報告と討議が行われた。また、今回はじめて参加される方もいて、最後に、ひとことずつ感想を述べて終了した。

(記録と文責:新井)

次回以降の開催予定、5月28日(月)19:00～21:00、6月27日(水)19:00～21:00。会場は慶応義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室。